

日本の五街道を完歩しました

歩きに歩いて1,578.5キロを97日間で完歩！

私は、これまで登山に徹してきた。50歳からの5年間は、酒飲み仲間の有志で立山縦走、白山、白馬岳等々の山を挑戦した。そして、5年後の「満55歳の誕生日(7月9日)を我が国最高峰の富士山の山頂で迎える」目標を立てて、本番は、登山経験のない妻を同行して無事に登頂を果たした。

そして、次なる目標を「関西百名山」への挑戦とし、満65歳の誕生日までの10年間で達成する大計画に向かって挑戦して、悲願成就を見ることができた。

さらに次への目標は、ご当地“富士”「おらが富士」全国ベスト25座、関西ベスト25座の計50座を満70歳までの5年間で登頂し、最後に奥の院「富士山」(3672m)の山頂で、満70歳の誕生日を迎えた。妻と長男・浩一同行での達成であった。

妻と山を歩きながら、70歳を迎えたら今度は、“登る“ことから“歩く“ことにして、我が国の五街道を7年(喜寿までに)の歳月をかけて完歩する大目標を立てた。

① 東海道五十三次を33日間で歩く

まず、手始めに『東海道五十三次を歩くふたり旅』の計画を立てた。しかし、平成25年7月に「富士山」登頂以来、「るんびに苑グループ」の記念事業のために、私の余裕時間の全てを傾注し、心の余裕が持てずに本計画を延々と引き延ばしていた。そして、翌26年(2014)満71歳を迎え、いよいよ決行を決意し、その年の9月28日(日)にスタートした次第である。

交通手段が開発されていない江戸時代、先人たちが歩んできた道には様々な遺産がある。往時の旅を偲び、想像しながら「現代の東海道五十三次」を、妻と“弥次さん・喜多さん”の珍道中の旅を始めたのである。そして、翌年の12月10日、33日目にして関東在住の私の仲間たち7名が大江戸日本橋のたもとで出迎えて、祝杯を挙げてくれた。感無量、感謝・感激の名場面であった。

② 中山道六十九次を34日間で歩く

平成28年(2016)県人会の事務局(専務理事)を仰せつかって、これまた私の余裕時間の全てを捧げて、街道歩きが足踏みとなった。

そして、翌平成29年(2017)の正月に思い立って、正月3日に「中山道」への挑戦を再開し、その年の12月7日に日本橋に辿り着いた。

③ 甲州街道四十四次を14日間で歩く

平成31年(2019)2月9日、3つ目の街道「甲州街道」を日本橋から下諏訪宿までを歩き、その年(令和元年)11月4日に辿り着いた。

④ 奥州街道十一次を6日間で歩く

令和2年(2020)1月11日、4つ目の街道「奥州街道」(一番最短の距離)を6日間で、3月20日に「白河宿」(福島県)に辿り着いた。

⑤ 日光街道二十一次を10日間で歩く

令和2年(2020)7月9日(満77歳・喜寿)に日本橋にゴールすべく、最後(5つ目)の街道「日光街道」を日光東照宮に参拝してスタートしたものの、今度は「新型コロナウイルス」の感染拡大である。

緊急事態宣言の繰り返しの中、延引せざるを得なかった。令和3年(2021)11月に感染者激減の状態になり、11月16日から3日間で日本橋にゴールした。

晩秋の日暮れは早く、日本橋に辿り着くころ(午後5時)には日没して真っ暗闇の午後5時10分にゴールした。ビジネスマンの退社時でもあり人の往来多く、立ち止まって、「おめでとう！」の声に、拍手で祝福してもらった。真に感無量であった。延べ97日間の1,578.5 ㎞の踏破！バンザイ！で「日本の五街道を歩く旅」の幕を下ろした。

松尾正隆記(当会・専務理事)